

令和4年9月2日

京都府農林水産技術センター農林センター

9月に接近する台風に係る技術対策

農業技術情報（第2号）

接近する台風によって京都府も大雨・強風となる可能性があります。気象情報に注意して警戒するとともに、以下を参考に十分な対策を講じてください。

但し、人命第一の観点から、台風通過中や雷鳴が聞こえる間は絶対に作業を行わず、通過後も気象情報を確認した上でほ場周辺の安全に十分注意し、状況が治まってからの事後対策作業をお願いします。

9月1日大阪管区気象台発表の向こう1か月予報では、暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いとの予測です。体調管理には留意してください。

1 水稲

(1) 通過前

① 既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

(2) 通過後

① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

② 成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ、京の輝き、祝などの穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。

③ 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2 豆類

(1) 通過前

① 豆類は湿害に弱いため、必ず排水路や排水口等の点検を行い滞水させないようにする。

② 大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 通過後

① 大豆・小豆では、莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤を散布する。

② 浸水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆については茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

(1) 通過前

① 明きよや排水路の点検・整備など、排水対策をしっかりと行っておく。

- ② パイプハウスは概ね30m/s 以上の風速で大きな被害が発生する。ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

また、風に飛ばされたものがハウスに当たって破損する機会が多いので、周囲をよく整理し、風に飛ばされやすいものは片付けておく。

- ③ 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。
- ④ 果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 作物への泥のはね上がりが多い場合は、動力噴霧器等を使って洗い流す。
- ③ 液肥(500~1,000倍)の施用や葉面散布を行い、草勢の早期回復を図る。
- ④ 雨風による傷から病原菌が侵入しやすいので、こまめに観察し必要に応じて発生初期に防除する。
- ⑤ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。

4 果樹

(1) 通過前

- ① 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
- ② 果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないよう補強しておく。また、棚の揺れ止め補強をしておく。
- ③ ハウス(雨よけ含む)では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ④ 棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかりと誘引して、枝折れや果実の落下を防ぐ(傷果防止)。
- ⑤ 幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。
- ⑥ 強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種(ナシ、ブドウ等)では、できるだけ収穫する。
- ⑦ 排水対策(明きよ等)をしっかりと行っておく。
- ⑧ 収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風に煽られないようビニールを外しておく。
- ⑨ ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。
- なお、ナシ、ブドウは収穫時期にあたるため、登録内容の収穫前日数に注意する。

(2) 通過後

- ① 落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ② 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③ 冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

(1) 通過前

- ① 新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
- ② 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を整備する。
- ③ 被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。
- ④ 輪斑病及び新梢枯死症の発生茶園では、強風により生じた傷から病害が広がるおそれがあるため、予防防除を行う。
- ⑤ 挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。
- ⑥ 製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。浸水が予想される場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

(2) 通過後

- ① 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ④ 性フェロモン剤(交信攪乱剤)を設置した茶園では、剤が地面に落ちたり、切れたりした場合には、拾って再設置する。
- ⑤ 製茶工場が浸水した場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーを落として、ピットの排水に努めるとともに、モーター類電機設備の点検を行い、安全を確かめてから通電すること。電機設備の整備点検は専門業者に依頼すること。生葉コンテナ等水洗い出来るものは十分に水洗いし、乾かしてから通電すること。

6 作業者の熱中症を防ぐ対策

(1) 作業環境面

- ① 日除けや通風をよくする設備を設置し、作業中は適宜散水する。
- ② スポーツドリンク等でこまめに水分と塩分を補給するとともに、身体を適度に冷やすことができる氷、冷たいおしぼり等を備える。
- ③ 作業中の温湿度の変化がわかるよう、温度計、湿度計等を設置する。
- ④ 日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保する。

(2) 作業面

- ① 十分な休憩時間や作業休止時間を確保する。
- ② 作業服は透湿性、通気性の良いものを、帽子は通気性の良いものを着用する。
- ③ 作業が辛いときは無理をせずに日陰の涼しいところで休憩し、水分を補給して、身体を冷やす。

(3) 健康面

- ① 健康診断結果などにより、健康状態をあらかじめ把握しておく
- ② 作業開始前や、作業中に作業員間で健康状態を観察する。

(4) 救急措置

- ① 近くの病院や診療所の場所を確認しておく。
- ② 熱中症は、早期の措置が大切であり、少しでも異常が見られたら以下の手当を行う。
 - 涼しいところで安静にする。
 - 水やスポーツドリンクで水分を摂る。
 - 体温が高いときは、裸体に近い状態にし、冷水をかけながら扇風機等で風をあてる。また、首、脇の下、足の付け根など太い血管のある部分を氷等で冷やす。
 - 回復しない場合及び症状が重い場合等は、速やかに医師の手当を受ける。